

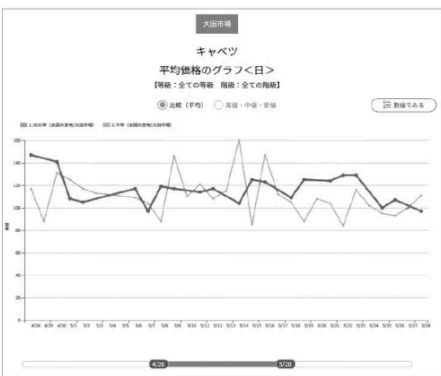
# 30市場の市況を掲載

## 価格動向 新機能で利便性向上 分析など

農業向けシステムの開発を行うアシストシステムズ（大西裕社長、東京都新宿区）は、全国30青果卸売市場の市況情報が閲覧できるウェブサイトを「アグリネ」(https://agrine.jp)を2022年から公開している。任意の「品目×産地×市場」の組合わせで日々の入荷量や価格を確認できる利便性の高さなどから、卸売市場の卸・仲卸の担当者を中心に利用されている。このほど、利用者のニーズに添えて機能を拡充。過去の任意の年とのデータ比較や、今後の価格動向の分析、産地リレーの把握などに役立つ機能が加わった。

アシストシステムズは、はそのデータを活用して1984年の設立。農山漁村文化協会と連携し、農業情報や栽培技術情報などを提供する農業情報サイト「ルール電子図書館」を30年にわたり運営している。

アグリネはこのノウハウを活かした青果市況閲覧サイト。2021年に農水省の「生鮮食料品流通情報普及利用事業者」に認定され、アグリネに



レタス (全国の産地) 旬・入荷動向<半年>

入荷量・価格が変動する場合は黄色で表示しています

品目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全国産	499,544	518	518	1,071	82,890	91,024	113,546	133,233	96,591	86,130	202	518
北海道	76,495	518	518	1,170	100,000	91,024	1,068	1,170	1,170	1,170	1,170	1,170
東北産	271,204	1,204	1,204	20,275	24,600	5,730	518	518	224	20,275	20,275	2,461
関東産	107,738	14,738	14,738	14,738	10,640	5,732	291	518	14	74	4,544	14,738
中部産	39,135	4,095	4,095	6,224	11,605	3,995	518	518	518	567	4,302	11,605
北陸産	29,024	518	518	2,021	2,021	2,021	2,021	2,021	2,021	2,021	2,021	2,021
近畿産	21,799	3,374	3,374	4,199	3,099	2,744	251	518	491	800	1,419	3,374
中国産	11,839	1,839	1,839	1,739	1,839	1,219	321	518	20	200	914	1,839
四国産	1,609	518	518	79	1,079	1,079	1,079	1,079	561	518	518	518
沖縄産	1,899	518	518	71	518	204	518	518	518	71	518	518
韓国産	14,738	1,214	1,414	2,214	2,214	518	518	518	280	2,214	4,214	2,214
台湾産	4,135	4,135	518	518	518	518	518	518	491	491	491	251
中国産	7,694	1,714	1,214	2,214	1,214	491	518	518	518	518	204	694
韓国産	2,620	424	444	491	304	144	518	518	21	71	210	424
台湾産	291	518	518	14	14	14	14	14	14	14	14	14

は、そのデータを活用している。トップページでは、全国30卸売市場（平均）における品目別の価格（高値・中値・安値・平均）とともに、入荷量を掲載。特定の品目をクリックすると、価格、入荷量の推移を半年とともにグラフで表示する。また、今後1か月〜1年先の半年の実績も見ることができ、今後の価格展開を予測するうえで参考になる。無料の「フリープラン」などでは半年との比較のみだが、有料の「スタンダードプラン」では、17年以降の任意の年と比較できるようにした。

また、新たに加わった「動向」機能では、主要品目について、半年の各月入荷量と取扱金額を掲載し、どの月に入荷が多かったか、取扱金額が高かったかを色分けして可視化（下表）。全国・市場別で表示できる。同社では、産地リレーを構築する際などの参考にもなるという。フリープラン

測するうえで参考になる。無料の「フリープラン」などでは半年との比較のみだが、有料の「スタンダードプラン」では、17年以降の任意の年と比較できるようにした。

また、新たに加わった「動向」機能では、主要品目について、半年の各月入荷量と取扱金額を掲載し、どの月に入荷が多かったか、取扱金額が高かったかを色分けして可視化（下表）。全国・市場別で表示できる。同社では、産地リレーを構築する際などの参考にもなるという。フリープラン

が可能。こうしたカスタマイズを「マイ市況」として登録でき、メールで通知してくれる。

アグリネの利用は無料の「フリープラン」、有料（価格は税込み）の「ライトプラン」（1か月1460円、12か月1万3200円）、「スタンダードプラン」（19800円、1万7760円）がある。

フリープランでは「マイ市況」の登録が3件までだが、ライトプランでは最大20件まで可能。また、ライトプランはスタンダードプランとともに、市況情報を前週、前月、前年と比較することができ、さらに市況情報や動向データのエクセルへのダウンロードも可能。スタンダードプランでは、市況データを月間、週間でも閲覧できる。

多くのデータで過去の任意の年と比較できるようにしたのは、利用者のニーズを受けてのことだという。同社では、今後も利便性を高めていくとともに、AIによる主要品目の市況予測システムも開発中だ。